プレスリリース

2022.7.13
株式会社京都春秋

約10万人を動員した特別公開から5年半。
遂に今年京都国立博物館から【国宝】狩野永徳・松栄筆 本堂障壁画が里帰り！

大徳寺 聚光院 特別公開決定

期間：2022年9月3日（土）～2023年3月26日（日）

～その他、聖護院や酬恩庵一休寺などで特別公開が続々と決定、大徳寺本山では特別企画を実施～

【国宝】聚光院本堂障壁画
狩野永徳筆『花鳥図』

「京都の伝統文化と世界を繋げる」を企業理念に、非公開寺院の特別公開やワンランク上の京都の文化体験を企画・運営する株式会社京都春秋（本社：京都市中京区、代表取締役：市川 豊）は、京都でも有数の規模を誇る禅宗寺院 大徳寺の塔頭「聚光院」の特別公開を5年半ぶりに2022年9月3日（土）～2023年3月26日（日）の期間、開催致します。今回の特別公開では、桃山時代の天才絵師、狩野永徳（狩野派４代目）とその父 松栄（狩野派３代目）によって描かれた**国宝・聚光院本堂障壁画全46面が京都国立博物館から5年半ぶりに里帰りし一般公開されます。**

大徳寺は織田信長や豊臣秀吉など戦国大名ゆかりの地で、その戦国武将に仕えた茶聖 千利休や日本美術史上の重要人物の一人、狩野永徳を代表とする狩野派などが活躍した当時の文化の最先端であり、後世の日本文化に多大な影響を与えた場所です。大徳寺塔頭 聚光院は千利休の菩提寺として知られ、また利休の流れを汲む茶道三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）歴代の墓所でもあり茶道を嗜む者にとって特別な場所です。

2016年に聚光院本堂障壁画が聚光院に里帰りし特別公開された際は、全国から約10万人が国宝を拝観するために集まりました。永徳が手掛けた作品は兵火・破却に遭い現存するものは少なく、**このスケールで残るものは聚光院 本堂のみです。**また茶道三千家の関わりを持つ「閑隠席」「枡床席」（共に重要文化財）の二つのお茶室、国の名勝に指定されている千利休作庭と伝わる方丈庭園「百積の庭」が公開されるほか、世界的に活躍する日本画家・千住博画伯の障壁画『滝』も5年半ぶりに公開されます。

そのほか、**秋に開催する大徳寺本山の特別企画や大徳寺三塔頭の特別公開、本山修験宗総本山 聖護院門跡、酬恩庵一休寺の特別公開情報は4頁以降よりご確認ください。**

【報道関係者のお問い合わせ】

株式会社京都春秋 広報 八田 （ハッタ）Email： y-hatta@kyotoshunju.co.jp　Mobile： 080 - 7633 - 8259

【PR素材】
ご使用の際は必ず上記広報担当者に一報の上、各頁よりダウンロードしお使いください。

【秋の特別公開　運営に関するお問い合わせ】
株式会社 京都春秋
TEL：075-231-7015　FAX：075-231-6420　Email：info@kyotoshunju.com HP：https://kyotoshunju.com

聚光院 本堂

聚光院は永禄９年（1566）、戦国武将の三好義継が養父・長慶の菩提を弔うために創建。開祖である笑嶺宗訢が千利休参禅の師であったことから、利休は聚光院を自らの菩提寺としました。また利休の流れを汲む茶道三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）歴代の墓所でもあり、茶道を嗜む者にとって特別な場所です。

公開期間　：2022年9月3日(土)～2023年3月26日(日)
休止日　　：京都春秋HPをご確認ください。
拝観時間　：10：00～16：00（最終受付）
拝観料　　：大人2,000円、中高生1 ,000円
（中学生は保護者同伴、小学生以下拝観不可）
公開形式　：毎時00分、20分、40分に人数を区切って
グループ拝観（ツアー形式）
予約優先（京都春秋HPもしくは電話受付にて）

特別公開　：【国宝】狩野永徳・松栄筆 本堂障壁画
【重要文化財】本堂、茶室「閑隠席」「枡床席」
【名勝】方丈庭園「百積の庭」
書院（千住博筆障壁画『滝』）

京都国立博物館より5年半ぶりに里帰り！【国宝】 狩野永徳・松栄筆 本堂障壁画

狩野永徳筆『花鳥図』

狩野松栄筆『竹虎遊猿図』南面

聚光院本堂の障壁画は桃山時代の天才絵師、狩野永徳（狩野派４代目）とその父、松栄（狩野派３代目）によって描かれました。特に永徳は当時24歳と若年ながら本堂の中心的機能を持つ室中を任され、傑作『花鳥図』を描き上げます。

天才・狩野永徳は現代でも日本絵画の重要人物の一人として挙げられますが、永徳が手掛けた安土城、聚楽第、大阪城はいずれも兵火・破却に遭い現存する作品は少なく、**このスケールで残るものは聚光院 本堂のみです。**1979年に『モナリザ』が来日し展示されましたが、その際に答礼としてフランスで展示されたのが永徳の『花鳥図』でした。まさに日本美術を代表する傑作です。

狩野父子による障壁画46面は全て国宝に指定され、**今年、京都国立博物館から5年半ぶりに里帰りし一挙公開されます。**聚光院本堂の空間のために計算され描かれた障壁画であるからこそ、博物館で観る印象よりも、躍動感が伝わります。

【重要文化財】茶道三千家の関わりを持つ「閑隠席」「枡床席」の二つのお茶室

閑隠席

枡床席

聚光院と茶道三千家の関わりを最も如実に伝えるのが、共に重要文化財である「閑隠席」と「枡床席」の二つのお茶室です。閑隠席は千利休150回忌の際に表千家７代如心斎の寄進によって建てられたもので、ここで朝茶が開かれたことが記録にも残っています。利休の精神を汲み、明かりが極度に制限され簡素で緊張感のある設えが特徴。3畳と狭く、床柱は真っ直ぐな赤松皮付が使用されています。対して閑隠席と水屋を隔てて隣り合う枡床席は4畳半とやや広くその半畳は踏込み式の床の間となっています。床柱には曲線の赤松が使用され、天井もやや高く開放的で柔らかい空間に設計されています。

書院・千住博筆『滝』

平成25年（2013）に落慶した聚光院書院には、東京国際空港第２ターミナルやAPEC JAPAN 2010の首脳会議に作品が展示されるなど、世界的に活躍する日本画家・千住 博画伯の障壁画『滝』が納められています。

千住 博：日本生まれ。ニューヨーク在住の画家。崇高で巨大なスケールの滝や崖の作品で世界的に知られている。抽象表現主義に根ざしたミニマルな表現と日本古来の絵画技法を組み合わせた作品を制作している。2007年から2013年まで京都造形芸術大学学長を務め、現在は京都芸術大学教授、康耀堂美術館館長、ヴァン・クリーフ＆アーペル芸術学校（レコール）マスターズコミッティー委員、公益財団法人徳川ミュージアム相談役などを務める。

牧谿筆 国宝『観音猿鶴図』など大徳寺本山に眠る名宝を
案内付きでじっくり拝観できる**一席15名様限定の特別企画**

大徳寺方丈 修復事業記念企画
大徳寺 寺宝特別展示茶会

三門「金毛閣」
（重要文化財）

後醍醐天皇から「本朝無双之禅苑」と評された禅宗の名刹、大徳寺は大燈国師によって1326年に創建されました。一休宗純や沢庵宗彭などの名僧を輩出したほか、千利休や狩野永徳など後世の日本文化に多大な影響を及ぼした人物たちが活躍した場でもあり、数多くの貴重な文化財を今に伝えます。

2020年、大徳寺の方丈（国宝）の瓦屋根の葺き替えに伴って、約7年にわたる半解体修復が始まりました。これに合わせ、修復事業へのご協力を仰ぐために寺宝展とお茶会を企画しました。長谷川等伯ら室町時代以降の絵師に多大な影響を与えた牧谿の【国宝】『観音鶴猿図』や『龍虎図』など、日本美術ファンにとっては垂涎ものの寺宝を展示します。併せて大徳寺ゆかりのお道具で設えたお茶会も実施いたします。

実施概要　　**本件に関する素材はこちら**

【国宝・前期】牧谿筆『観音猿鶴図』（観音）

場所　　：大徳寺
開催日時：2022年11月12日（土）13日（日）、14日（月）
　　2022年11月25日（金）26日（土）、27日（日）
開催時間：10時、12時、14時（1日３席）
所要時間：約120分（伽藍案内40分、お茶会30分、寺宝拝観50分）
定員　　：一席最大15名（事前予約必須）

寺宝　　：25-30点（全てお軸）
・牧谿筆『観音猿鶴図』（国宝・前期）
・牧谿筆『龍虎図』（重文・後期）
・狩野永徳筆『織田信長像』（前後期）など

参加費　：23,000円（税込、方丈修復へのお布施を含む）

内容　　：金毛閣（重文・外観のみ）、法堂（国宝）などの
伽藍を、ツアー形式で拝観（専属スタッフ）
瑞雲軒（元有栖川宮家書院）でのお茶会（大徳寺僧侶）
寺宝の拝観（一部僧侶による解説、その後自由拝観）

問合せ先：京都春秋ことなり塾（株式会社京都春秋内）

狩野派障壁画100余面　光格天皇仮御所ともなった
本山修験宗総本山 聖護院門跡

謁見の間(上段の間)

聖護院門跡（しょうごいんもんぜき）は、天明の大火により御所が火災に遭った際、光格天皇の仮御所ともなった門跡寺院の中でも非常に格式高い寺院です。その格式を証明するかのように、狩野探幽の養子・益信と京狩野三代目狩野永納による煌びやかな金碧（きんぺき）障壁画 130面が納められてます。京狩野と江戸狩野、両方の絵師が同じ場所に作品を納めた珍しい例です。

特別公開情報

聖護院門跡に関する素材はこちら

大玄関

公開期間　：2022年9月18日（日）～12月4日（日）

休止日　：11月28日、29日

※法務により拝観休止日が増える可能性有

拝観時間　：10：00～16:00受付終了

拝観料　：大人800円（団体15名以上700円）

中高校生・大学生600円　小学生以下無料（保護者同伴）

特別公開　：大玄関
宸殿
狩野永納・狩野益信筆 宸殿障壁画
本堂
【重文】本尊 不動明王像
※書院は修復工事中のため、ご拝観いただけません。

狩野派筆 宸殿障壁画

宸殿には狩野山雪の子、狩野永納と、狩野探幽の養子、狩野益信による金碧障壁画100余面が納められており、緑青や朱を使った迫力溢れるものから、墨を主として描いた落ち着きのあるものまで、幅広く描かれています。

【重要文化財】
本尊 不動明王像

聖護院は、明治の廃仏毀釈の際に廃寺となった末寺から預かった不動明王像を多く安置しています。本堂に安置されている不動明王像は平安後期の作で、聖護院の数度の火災を免れ、守られてきたものです。

酬恩庵 一休寺
名勝庭園茶室「虎丘庵」秋季特別拝観

開催日程：　2022年11月～12月上旬のうち10日間程度（後日決定）

名勝庭園茶室「虎丘庵」

日本臨済宗の勃興に多大な影響を与えた南浦紹明（大應国師）が禅道場を建てたことに始まります。一時荒廃するが、一休宗純が康正年中（1455～6年）に南浦紹明の遺風を慕って堂宇を再興し、師恩に酬いる意味で「酬恩庵」と命名しました。一休禅師は後半生をここで過ごし、大徳寺住持となった際も酬恩庵から大徳寺へ通いました。禅師はこの場所で88歳で示寂、遺骨は境内に葬られました。足利義政が建てた本堂や前田利常が再興した方丈が重要文化財に指定されているほか、方丈を囲む３つの庭園や、秋に特別拝観をする虎丘庵庭園は名勝に指定されています。

虎丘庵はもと、京都東山の麓に在ったものを一休禅師74歳の時、応仁の乱のためこちらに移築したものです。草庵造りの静寂穏雅な建物で屋根は檜皮葺で葺かれています。周囲の庭園は禅院枯山水様式のもので、特に東部は七五三に配石をしており、大徳寺真珠庵の七五三庭園と同一手法です。作者は侘茶の祖、村田珠光と伝えられており、虎丘庵はその当時、珠光をはじめ金春禅竹などたくさんの文人が集う文化サロンでした。通常非公開の虎丘庵を、住職の案内で拝観していただき、庫裏にて住職と共にお茶で一服していただきます。

特別拝観情報

酬恩庵 一休寺に関する素材は[こちら]

日程　：2022年11月～12月上旬のうち10日間程度（後日決定）
開始時間　：11時、13時、14時、15時／日（所要時間：約40分程度）
定員　：各回10名
志納料　：2,000円（拝観料500円別途）

内容　：約20分の住職による虎丘庵の案内と自由拝観
その後、庫裏にて住職と歓談しながら喫茶

喫茶内容　抹茶 奥西緑芳園「芳草の白」
菓子 萬々堂「通無道」一休寺オリジナル菓子
特撰ほうじ茶　奥西緑芳園）

取材・拝観 酬恩庵一休寺（☎0774-62-0193）
問合せ先担当／副住職田辺宗弘
E-mail : office@ikyuji.com
酬恩庵HP : http://www.ikkyuji.org/
虎丘庵特別拝観HP準備中（10月公開）

大徳寺の塔頭 黄梅院、興臨院、総見院

大徳寺 黄梅院

唐門

織田信長が創建し、のちに豊臣秀吉が増築するなど戦国大名ゆかりの寺院。千利休が66歳の頃作庭したと言われる「直中庭」があることでも有名。苔とモミジが美しく紅葉の季節の観光スポットとしても名高い。

公開期間　：2022年10月1日（土）～12月11日（日）
休止日　　：10月28日
　　※法務の都合により拝観休止日が増える可能性有
拝観時間　：10：00～16：00（受付終了）
拝観料　　：大人800円・中高生400円・
　　小学生以下無料（保護者同伴）

特別公開　：千利休作庭「直中庭」
　　武野紹鷗好み茶室「昨夢軒」
　　方丈庭園「破頭庭」
　　【重文・複製】雲谷等顔筆 本堂障壁画
　　【重文】庫裡

【重要文化財】
日本最古の庫裡（くり）

寺院の台所で僧侶の居住空間だった場所。
日本に現存する禅宗寺院の庫裡としては最古のもの。

直中庭

千利休66歳の時に作庭されたと伝わる。秀吉公の希望により軍旗瓢箪を象った空池を手前にし、加藤清正公伝承の朝鮮灯籠を配した苔一面の枯山水庭園。

【重要文化財】
雲谷等顔筆 本堂障壁画（複製）

桃山四大巨匠の一人で、毛利家の御用絵師として雲谷派を築いた、雲谷等顔筆障壁画。桃山時代を代表する画僧雪舟の水墨画を手本とし、大胆な構図の水墨画を多く残した。（黄梅院のものは現在、複製です。）

大徳寺 興臨院

室町期の建築様式の特徴を見せる本堂（重要文化財）や唐門を持つ大徳寺興臨院。桃山期には豊臣政権の五大老を務めた前田利家が本堂屋根を修復、また菩提寺とするなど前田家とも非常に縁の深い寺院。優美で安定感のある姿が静寂と落ち着きを感じさせる本堂や、「昭和の小堀遠州」とも言われた作庭家、中根金作が復元した方丈庭園を持つこの寺院が特別公開を迎える。

本堂

公開期間　：2022年9月3日（土）～25日（日）
　　10月1日（土）～12月15日（木）
休止日　：9月23日、10月5日～7日
拝観時間　：10：00～16：30（受付終了）
　　※12月1日以降は16：00受付終了
拝観料　：大人600円・中高生400円・小学生300円（保護者同伴）
特別公開　：【重文】表門
　　【重文】本堂
　　方丈庭園
　　茶室「涵虚亭」（かんきょてい）

方丈庭園

白砂に石組みを配して理想の蓬莱世界を表す。本堂の解体修理時に、資料をもとに足立美術館の作庭者でもある中根金作氏が復元。

【重要文化財】唐門

唐破風、檜皮葺で、室町時代の建築の特徴を表す。波型の連子窓、客待の花頭窓などは禅宗の建築様式のひとつ。

大徳寺 総見院

羽柴（後の豊臣）秀吉が、本能寺の変に倒れた織田信長の追善菩提のために建立した大徳寺総見院。木造織田信長公坐像（重要文化財）はその葬儀に際して造られた。信長亡き後の政権争いの中、秀吉がその主導権を握るため建立した歴史的背景のある寺院が公開。

【重要文化財】木造織田信長公坐像

公開期間　：2022年10月9日（日）～11月30日（水）
休止日　：10月27日～30日は拝観休止　11月6日は11：30～受付開始
　　法務の都合により、拝観休止日が増える可能性有り
拝観時間　：10：00～16：00（受付終了）
拝観料　：大人600円・中高生400円・小学生以下無料（保護者同伴）
特別公開　：本堂
　　【重文】木造織田信長公坐像
　　信長公一族の墓碑
　　お茶室

信長公一族の墓碑

信長公をはじめ、徳姫（信長の息女）、濃姫（正室）、おなべの方（側室）など、一族7基の五輪石や墓碑が並ぶ。

茶室

３つの茶室が並ぶ。総見院と茶の湯は関わりが深く、総見院方丈に秀吉が大徳寺大茶会では茶席を設けたと記録が残る。